

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	
鴨川市地域公共 交通活性化協議 会	鴨川日東バス株式 会社	北ルート 金山ダム～鴨川駅 西口～鯛の浦～内 浦山県民の森	計画に定めた目標の達成 を目指し、コミュニティバス各 ルートのパンフレット作成及 び配布をするとともに、モビ リティ・マネジメントの一環と して、小学生を対象とした 「公共交通乗り方教室」を開 催するなど、利用促進に取り 組んだ。また、利用者ニーズ に即したサービスとするた め、運行事業者から停留所 ごと・便ごとの利用状況の定 期報告を受け、利用状況の 把握・分析に努め、利用者 増加に向けた検討を行っ た。	事業は計 画に位置 付けられ たとおり、 適切に実 施され た。	利用目標39,042人/年に対し、実績 では33,314人/年であった。 内訳は、以下のとおり。 ○北ルート 実績 16,124人/年 (対前年比 96.9%) ○南ルート 実績 13,997人/年 (対前年比 94.1%) ○清澄ルート 実績 3,193人/年 (対前年比 68.5%) (理由等) 目標が達成できなかった大きな要因 として沿線住民の減少が考えられ る。 様々な利用促進事業に取り組んだ ほか、スクールバスとしての活用も 図っているが、目標値を達成できな かった。	一層の利用促進を図るた め、乗り方教室等の継続的 な実施に取り組むとともに、 バスの乗り方等の周知を図 るための資料を作成・配布 するなど新たな利用促進事 業にも取り組んでいく。 また、運行事業者から提供 される利用状況のデータ分 析に加え、利用者へのヒア リング調査等を実施し、利用 者ニーズや利用動態等の把 握に努めるとともに、これら の分析結果に基づき、必要 に応じた運行ダイヤの改正 等の検討を行う。	事業が計画に位置づけられたとおり適切に実施されて おり評価できる。 目標・効果の達成状況については、沿線住民の減少等 から利用者が減少傾向にあり、目標に達していないもの の、パンフレットの配布や公共交通乗り方教室等の、積 極的な利用促進に努めていただき、また利用状況の把握 による調査・分析等を実施することで、持続可能な地 域公共交通の確立に向けて引き続き取り組むことを期 待する。 なお、平成29年度地域公共交通確保維持改善事業第 三者評価委員会における委員による以下の助言は、今 後の取組みを行う上で必要な観点であり、考慮された い。 ○利用者数や目標達成だけでなく、地域にとって何 がプラスになるのか、より踏み込んだ調査検証・分析が することが重要 ○広域的な視点で見るときは、県と市町村が連携して 取り組むことが重要 ○路線バスとコミュニティバス(デマンド含む)を、上手く 連携した運賃システムや乗換えの仕組みを作ることが 重要 ○専門的知見に基づき需要予測を行い、ターゲット・ ニーズを把握し、定量的な目標を設定することが重要 ○持続可能な交通を確立する運賃を設定することが重 要
		北ルート 金山ダム～鴨川市 役所～鴨川駅西口					
		南ルート 曾呂終点～畑青年 館～鴨川駅西口～ 浦の脇～鴨川駅前					
		南ルート 曾呂終点～畑青年 館～鴨川駅西口					
		南ルート 浦の脇～東条病院 ～鴨川駅前					
		清澄ルート 奥清澄～清澄寺～ 天津小湊支所					